

# 農業排水モニタリング調査(農薬、栄養塩)\*

岡村貴司・幡野真隆

## ◆背景・目的

琵琶湖には春先に農業排水が流入し、漁場の一次生産力の低下や底質環境の悪化、魚類への影響が懸念される。そこで、懸濁物質(SS)、農薬、栄養塩など一連の汚濁・汚染負荷について調査してきた。

本研究ではモニタリング調査等を継続的に実施し、琵琶湖への負荷の状況や環境の動向を把握することを目的とする。

## ◆成果の内容・特徴

### ○ヨシ帯内への農薬流入状況調査(SS調査と同時期、同地点)

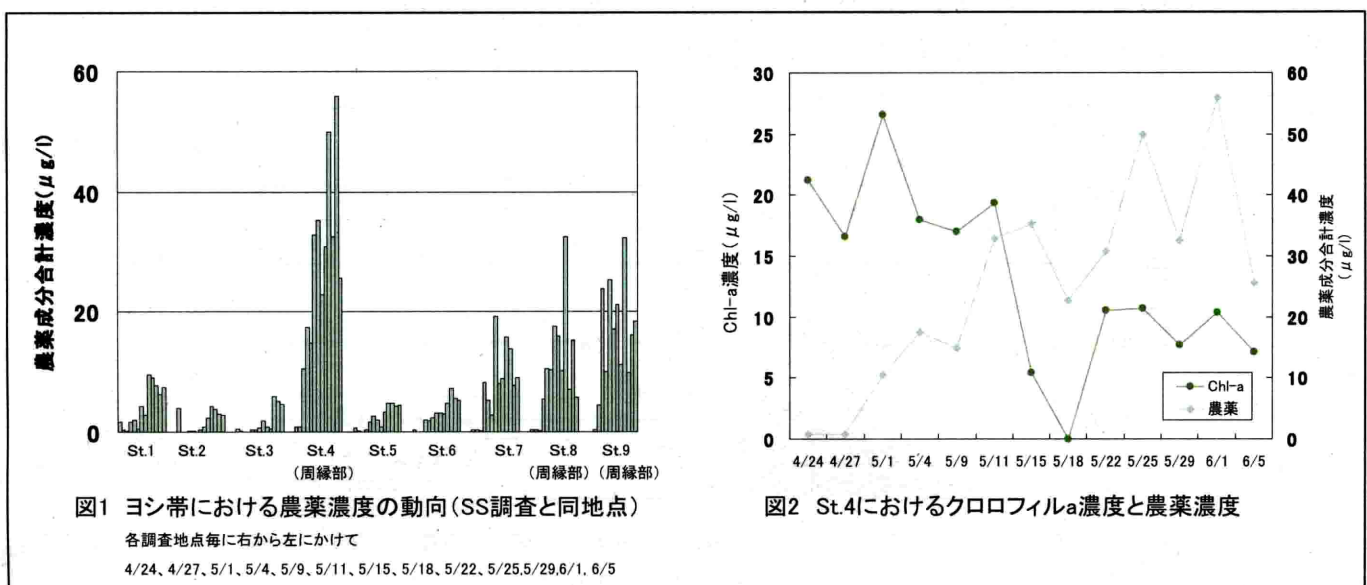
- ・ヨシ帯周縁部では最高で農薬濃度が56ppbが、内側の調査地点ではほとんどの地点で数ppbであったが農薬が検出された(図1)。
- ・クロロフィルa濃度は周縁部で低く、内側で高い傾向を示した。そのうち、St.4では農薬濃度の上昇にあわせて、クロロフィルa濃度が低下する傾向がみられた(図2)。

### ○ヨシ帯の湖水を用いた植物プランクトンの増殖試験

- ・上記調査地点の湖水を用いて、*Pseudokirchneriella subcapitata* の増殖試験を行ったところ、周縁部で増殖率が低下したが、増殖阻害要因は特定できなかった。

## ◆成果の活用・留意点

- ・排水の流入は毎年みられるため、今後も継続してモニタリング調査を行うとともに一次生産力や底質環境を把握する必要がある。



\*: 農薬分析は、滋賀県立大学 講師 須藤幹氏